

ネットワーク

「まちかどネットワーク」は、皆さんの地域の話題を中心にお届けするコーナーです。

皆さんの身近で起こった出来事、御意見などをお寄せください。連絡先：市内永田町一―100 市広報広聴課 五―0113 内線二八三三

締め切りは毎月十五日です。

市長への
手紙から

絵はがきの発行を

このコーナーは「市長への手紙」をお寄せくださった人の中から、意見・要望・提言などを紹介します。今回は、川成島の渡辺昌子さんの「富士市を紹介する絵はがきの発行を」についてです。（「市長への手紙」の用紙は、各公民館などに備え付けられています）

〈市長への手紙〉

私は人に便りを書くのが好きで、よその土地へ行くと必ずその土地の絵はがきを買って来ます。記念になりますし、その絵はがきで便りを送るのも、風情があつて楽しいものです。

さて、私の故郷は沼津市です。ここでは、市役所で「沼津新八景」というスケッチ風の絵はが



渡辺昌子さん

きを八枚一組で売っています。市民が古くから親しんでいる風景（香山・大瀬崎など）を画家がスケッチし、絵はがきとしてつくったものです。

これは、写真より温かみがあり、他県に住んでいる知人などに送つたら、とても喜ばれました。

そこで私の提案なのですが、富士市でもこのような絵はがきを発売してはいかがでしょう。

新幹線の停まる街になったことですし、市民はもとより、広く他県の人にも親しみを持って「富士市ってこういうところなんだなあ」とアピールすることもできるのではないでしょうか。

富士山の絵はがきを用意

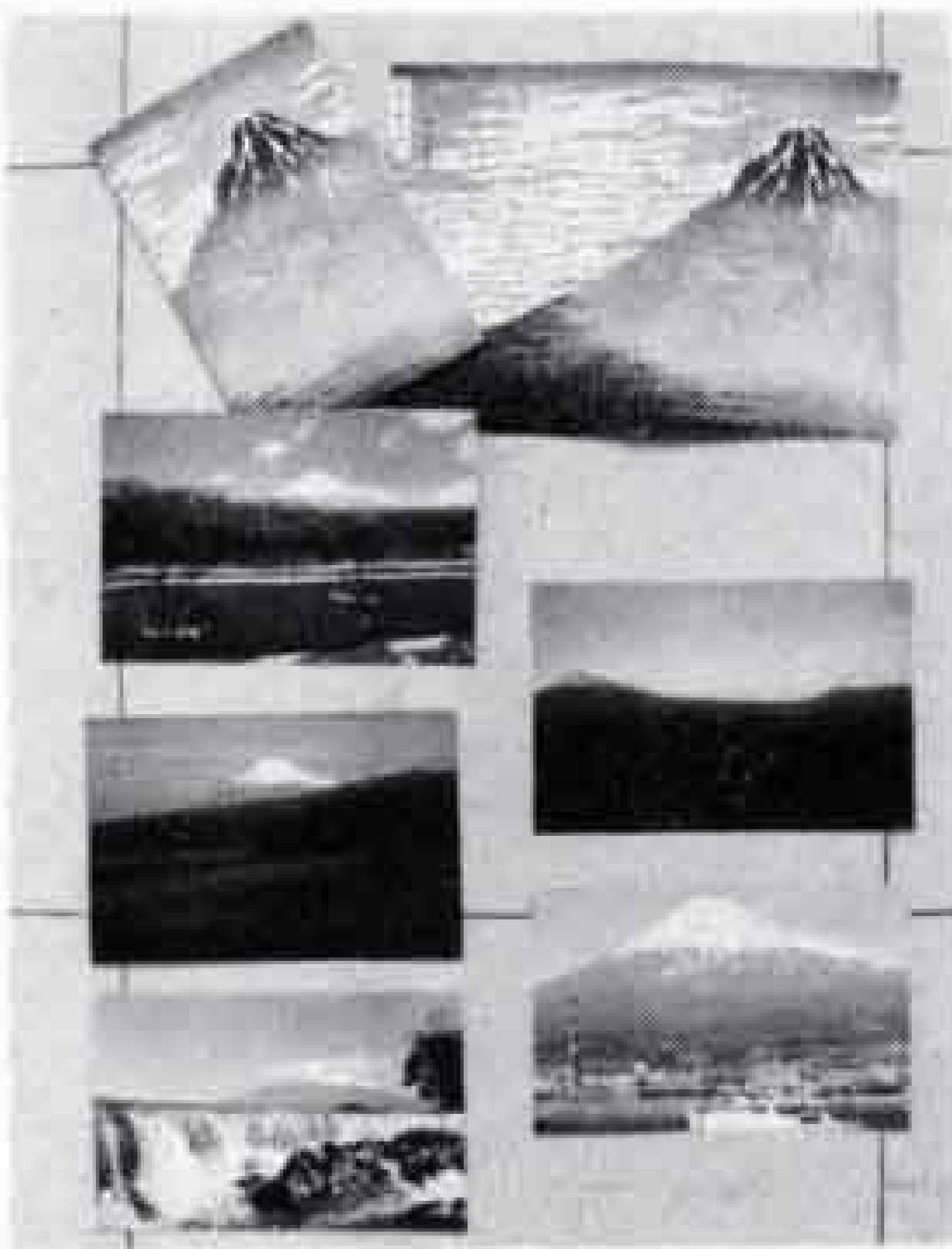
〈市長の答え〉

市長への手紙ありがとうございます。私も渡辺さんの御意見のように、全国の人にもっと富士市を知ってもらふ必要があると思っています。

さて、絵はがきについては市と市観光協会（富士商工会議所内）がつくり、利用される人には無料で配布しています。富士川や岩本山などから見た富士山の写真を使い、五枚つづりとなっています。

今後、新たな絵はがきの作成も検討していきたいと考えています。

絵はがきは商業労政課内線二五三三あるいは、市観光協会 五―0113 にお問い合わせください。



絵はがき

心身障害者小規模授産所「竹の子」の所長

近藤勝彦さん

五貫島(32歳)



「竹のようにすくすくと伸びよう」という願いを込めて誕生した心身障害者の小規模授産所「竹の子」。近藤勝彦さんは所長として十六人の障害者とともに歩み始めました。

「人間の原点を問う、やりがいのある仕事をしたい」と小・中学校の講師から福祉の道へ。開所に

当つては障害者も指導員も不安な中でスタート。しかし、開所して一カ月余り「皆さんが楽しいといつて来てくれるので：運営に手こたえを感じ始めています」と順調な滑り出し。

「竹の子」の特徴は、従来の施設に比べて町中にあること。開かれた施設を目指し、地域と障害者の触れ合いの場としての期待もあります。六月二十六日にはバザーも開く予定です。

「夢を大切にしたい」と語る純粋派。学生時代から続けるパトミニオンはかなりの腕前でバイタリティも十分。「竹の子」は真つすく伸びそつです。

